

# ひろば

Vol.123 2012.12.20. 発行  
東京工芸大学同窓会

<http://www.t-kougei.gr.jp>  
発行人：田沼 武能  
〒164-8678  
東京都中野区本町 2-9-5  
TEL & FAX 03-5371-2732 (事務局)



田沼武能 同窓会会長

## 第3回 全国支部長会が 開催されました



若尾学長



岩居法人理事長

東京工芸大学同窓会は、1926年(大正15年)4月、小西写真専門学校の卒業生(17名)により東京写真学会として発足し、本年度で86年目を迎えておりますが、お陰様で当同窓会の総登録会員数は2万人を超えるに至り、その組織としては、国内に33支部、そして新たに韓国支部が加わり、合計34支部で成り立っています。

このような背景の中、平成24年9月8日(土)、活性化推進を目的とした全国支部長会が、田沼武能会長のもと、新潟チサンホテルにて開催されました。

今回の全国支部長会は、平成18年と同21年に開催して以来の3回目となりましたが、この積み重ねが功を奏し、支部役員同志での親交に深みが増す中、同窓会本部や大学側との情報交換、各支部での活動状況やその成果、そして初参加の韓国支部からは文化活動の実施報告など、同窓会の活性化に関わる貴重な提案や活発な意見が交換されました。

また、支部総会を未実施の先からは、近隣支部との合同開催も視野に入れて立ち上げていきたいとの声が出るなど、全国支部長会としての当初の目的を達成することができました。

なお、懇親会では、来賓の岩居文雄理事長、若尾真一郎学長にご挨拶をいただき、内藤明芸術学部長の乾杯の音頭で、大変中味の濃い親睦の場となりました。翌日は、希望者のみでしたが、北方文化博物館を見学し、古民家の豪華な趣を満喫しました。

最後になりましたが、新潟支部の皆様には一方ならぬお世話を頂き、誠に有難うございました。改めて感謝申し上げます。

東京工芸大学同窓会・理事長 川名 晴美(34期)







# 第3回支部長会



支部長会では各支部から活発な意見交換がされ、各支部の現状や今後の活動についての発表がありました。



新潟県支部一同



懇親会では大学理事長や学長も交え大変盛り上がりました。



翌日は、北方文化博物館を見学。特別に館長直々の説明があり、短い時間でしたが有意義でした。







## 関西支部恒例の支部総会開催される

平成 24 年 7 月 7 日（土）、関西支部恒例の総会を大阪長堀橋にあります「アークホテル」にて開催し近畿各地から同窓生が参加しました。

大学より、池田陽子名誉教授のご出席を頂きました。

38 期滝口氏の司会進行で、まず亡くなられました、畑中教授、44 期花川准教授、そして 23 期木野氏に黙祷を捧げ、42 期鷲田支部長の挨拶に始まり各役員、各地区の活動報告、会計報告、予算

案などが審議されました。

来賓講演にて、「文楽人形・舞台に生きる美」と題し、池田陽子名誉教授よりお話を頂きました。

記念撮影の後、懇親会に移り工 -21 期原氏の司会、39 期塙氏の乾杯に始まり、時間の経つのも忘れ現役に戻ったように話も弾み大いに盛り上がり、29 期渡辺氏の中締めで来年の再会を約して散会となりました。



## 東海支部総会

平成 24 年 9 月 8 日、新潟に於いて東京工芸大学同窓会全国支部長会が開催され、東海支部もそれに合わせて平成 24 年 9 月 29 日（土）に名古屋国際ホテルにて奥田副会長のご出席を頂き、東京工芸大学の現状とこれからの大学の未来像について語っていただきました。

出席者は 12 名と少数ではありましたが、青春時代に過ごした思い出に時間の経つのも忘れ、昔話に華が咲いて楽しいときを過ごしました。

次回にはもっと参加していただけるようお願いいたします。

東海支部長 磯谷 武美（36 期）

# フォックス・タルボット賞



第1席の上木 健裕さん

## フォックス・タルボット賞

2012 フォックス・タルボット賞は10月9日に審査が行われ、  
下記の方々を受賞しました。

第一席	上木 健裕	The dignity of man 放射線管理区域	芸術学研究科 2007年修了
第二席	赤木 瞬介	慟哭	芸術学部・写真学科研究生
第三席	佐藤 伸樹	幸せの価値	芸術学部・写真学科4年
佳作	長谷川 唯	天を望む (煉獄)	芸術学部・写真学科4年
佳作	李 東雄	Portrait, Wonderers	芸術学部・写真学科3年
佳作	孫 華	モノのポートレート	芸術学部・写真学科3年
佳作	旭 里奈	catch one's eye	芸術学部・写真学科4年
佳作	安田 有	Glass	芸術学部・写真学科2年
モノクロ賞	大澤 祥子	瞳のふれあい	芸術学部・写真学科3年



上木 健裕 「The dignity of man 放射線管理区域」



赤木 瞬介 「慟哭」



佐藤 伸樹 「幸せの価値」



長谷川 唯  
「天を望む (煉獄)」



李 東雄  
「Portrait, Wonderers」



孫 華  
「モノのポートレート」



旭 里奈  
「catch one's eye」



安田 有 「Glass」

フォックス・タルボット賞は、写真表現に情熱を傾ける若い作家の登竜門としての役割の他、国際的視野をもった写真家の育成を促進する目的により、1979年東京工芸大学短期大学部に設けられ、今回で第34回を迎えることになりました。

本賞は、ネガ・ポジ・プロセスの発明者で近代写真術の父、ウィリアム・ヘンリー・フォックス・タルボット氏（英・William Henry Fox Talbot 1800～1877）の偉業をたたえ、イギリスのフォックス・タルボット美術館のご協力を頂き、氏の名前を冠した賞となっております。

本年度のフォックス・タルボット賞の応募者は54名、作品数69点でした。作品も色々なテーマのものが、また卒業生から2年生までが偏ることなく選ばれ、バラエティーに富んだ写真展が開催されました。

第一席の上木健裕さんは昨年度佳作に入った卒業生です。

2011.3.11の福島原発事故直後から現地取材した作品で今年も応募されました。放射線量が高く域内立ち入り管理区域に暮らす人々や環境を取材し人間の生きるということをテーマにした作品です。第二席の赤木瞬介君は人間の生命への倫理観をテーマにしました。第三席の長谷川唯君は天国への浄化をイメージ化した作品です。なお今回も留学生が二人入選を果たしました。李東雄君は韓国の現代の若き女性像を、孫華君はものの存在を人間の顔にすげ替えたイメージを作品にしました。旭里奈さんはライブの人間像を、大澤さんは牧場で生きる動物の生き生きした姿を描写しました。安田有君はグラスが破壊される瞬間の動きを捉えた作品です。



大澤 祥子  
「瞳のふれあい」

文：上條 正名（43期）



# 写真学科に「肖像写真研究室」を開設



平成25年度より、写真学科の研究室に新たに「肖像写真研究室」が誕生します。写真学科の研究室は現在、学科のカリキュラムポリシーに基づいて8研究室あり、4年次で配属となります。研究室で卒業研究指導と並行して行われる各研究室独自の専門分野の授業では、古典技法の研究から、撮影技術、プレゼンテーション、現代写真、コマース写真等、幅広く展開されています。短期大学から4年制になって東京工芸大学のルーツでもある肖像写真・営業写真の教育から少し離れていましたが、近年、営業写真館へ就職を希望する学生も増えており、肖像写真研究室は、卒業後に営業写真館に就職して活躍できる人材育成を目的として開設されます。開設にあたっては、肖像写真に関わる教育プログラムの全面的な見直しを行い、研究室配属前の2年生から段階的・体系的に専門のカリキュラムを構築し、授業展開していきます。

研究室運営にあたっては、実際の写真館の現場で活躍されている営業写真家をゲスト講師として招聘する特別授業も多く開講していきたいと考えており、一般社団法人日本写真文化協会・協同組合日本写真館協会

などの営業写真団体にご協力頂き、全面的にタッグを組む形で進行していきます。振袖撮影や和装・洋装の婚礼撮影をはじめとする、従来からの肖像写真に必要な撮影テクニックやマナーを学ぶ演習・授業を行うことは勿論ですが、これからの時代に相応しい新しい考え方の肖像写真の探求・研究をしていくことにも力を入れ、営業写真業界、そして写真文化の発展に寄与していきます。

本年7月末に完成した新1号館にある学部共用施設のスタジオを使って、研究室の授業や営業写真団体等が主催するセミナー等も計画しており、東京工芸大学が幅広い範囲での肖像写真教育の拠点となります。

また、中央職業能力開発協会の技能検定対策授業も検討しており、将来の1級取得をめざし、まずは学生の3級受検を促進していきます。

これからの肖像写真研究室の活動に、ご期待下さい。

文：上田 耕一郎（75期 / 芸3期）

■研究室・入試についての問い合わせ先  
東京工芸大学 03-3372-1321（代表）

## 東京工芸大学 平成25年度入試のご案内

### ■募集学部・学科

- 芸術学部 写真学科/映像学科/デザイン学科/インタラクティブメディア学科/  
アニメーション学科/ゲーム学科/マンガ学科  
工学部 メディア画像学科/生命環境化学科/建築学科/コンピュータ応用学科/電子機械学科

### ■入試日程

学部	入試種別	出願期間（必着）	試験日	合格発表日		
芸術学部	AO入試	Ⅲ期 A日程	2/13(水)～2/23(土)	3/4(月)	3/7(木)	
		B日程	3/5(火)～3/15(金)	3/19(火)	3/22(金)	
	一般入試	I期	1/7(月)～1/21(月)	1/29(火)	2/2(土)	
		Ⅱ期	2/13(水)～2/27(水)	3/4(月)	3/7(木)	
	センター試験 利用入試	I期	1/7(月)～1/30(水)	本学による 個別学力試験なし	2/12(火)	
Ⅱ期		2/13(水)～2/23(土)	3/7(木)			
工学部	AO入試	Ⅱ期 B日程	2/6(水)～2/18(月)	2/21(木)	2/27(水)	
		Ⅲ期	2/18(月)～3/1(金)	3/6(水)	3/15(金)	
	一般入試	I期	A方式	1/7(月)～1/22(火)	1/29(火)	2/5(火)
			B方式		1/30(水)	
		Ⅱ期	2/6(水)～2/18(月)	2/22(金)	2/27(水)	
	センター試験 利用入試	Ⅲ期	2/18(月)～3/1(金)	3/7(木)	3/15(金)	
		I期	1/7(月)～1/18(金)	本学による 個別学力試験なし	2/8(金)	
		Ⅱ期	1/28(月)～2/15(金)		2/27(水)	
		Ⅲ期	2/20(水)～3/8(金)		3/15(金)	

※選考方法など詳細は平成25年度学生募集要項でご確認ください。

### ■同窓生子女等入学優遇制度について

同窓生および在学生の関係者を対象に、入学金相当額を免除します。  
詳細は、ひろば122号7ページをご覧ください。下記入試センターにお問い合わせください。

### ■願書請求・お問い合わせ

東京工芸大学入試センター 神奈川県厚木市飯山1583  
[フリーダイヤル] 0120-12-5246 [URL] <http://www.t-kougei.ac.jp>





### 第3回 ホームカミングデー

平成 24 年 10 月 6 日、中野キャンパスで第 3 回「ホームカミングデー」が開催された。カミングデーは卒業生の方々に大学の近況に触れ、当時の学友や恩師との再会・交流・親睦を深めるため大学が卒業生を招待するというイベントで、平成 22 年に第 1 回が行われて以来、毎年秋に行われ今年が 3 回目となった。

卒業 50 周年、25 周年にあたる卒業生には日頃からの社会貢献により大学の名誉を高めて戴いていることに謝意を表し、大学から学友記と記念品が贈られた。特に今回は 50 周年越えの卒業生も対象とし、50 周年対象者は計 34 名、25 周年対象者は 10 名で、当日申込者を含め 82 名が参加した。

式典、懇親会とも 2 期工事として 7 月末に完成したばかりの 1 号館新設校舎内で行われた。





## 写真印刷科 38 期同窓会

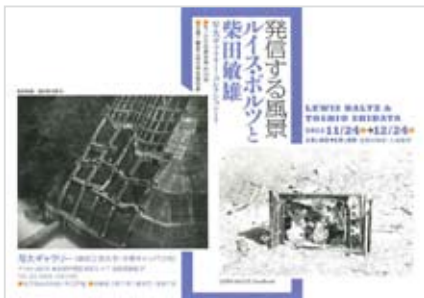
写真印刷科 38 期の我々は、10 年前の還暦で多数集まった同窓会を思い出し、今年には古希（70 才）を迎える年にあたり、今一度開催したいと、平成 24 年 9 月 3 日、東京錦糸町の東武ホテルレバント東京で開催いたしました。

山梨、新潟、奈良など、遠方から来た方もありました。皆、益々歳を取って病気をなんとか乗り越えた方々が多く、前回参加で故人となった方も 2 名いらっしゃいました。

八方先生も前回同様、参加していただき、総勢 13 名の懐かしい会となりました。

2 次会は東京スカイツリーを目の前に、最上階の 24 階のビューレストラン&バーで盛り上がりました。

幹事：今村 公重（38 期）



**発信する風景**  
**ルイス・ホルツと柴田敏雄**  
 2012 年 11 月 24 日（土）～  
 12 月 24 日（月）  
 写大ギャラリー  
 （東京工芸大学・中野キャンパス内）

### <事務局からのお願い>

#### ■同窓会誌を探しています

同窓会事務局では、同窓会誌の原本保存とデジタル画像保存をすることになりました。現在、資料の収集、整理を行っております。調査の結果残念ながら、事務局には全てが揃っていませんでした。事務局が所蔵していないものについては、会員の皆様にご協力をお願いすることになりました。

以下の会誌を所蔵されている方はご一報ください。

1. 東京写真学士会々報創刊号から昭和 25 年の会誌（1928～50 年発行）
2. 東京写真短期大学同窓会々報（1950～1965 年発行）
3. 東京写真大学同窓会々報（1973～74 年発行） B5 判 冊子
4. 東京写真大学同窓会々報第 6 号（1977 年発行） B5 判

※ 1.～3. は会報の発行状況がよく分かりません。

詳しい情報をお持ちの方はお教えてください。

■連絡方法：所蔵されている同窓会誌、お名前と電話番号を記入の上、同窓会事務局に、FAX または email を入れてください。

事務局の担当（木村）から折り返し連絡させていただきます。

FAX：03-5371-2732

メールアドレス：kimura@t-kougei.gr.jp

## 訃報（敬称略）

氏名	期	学科	旧姓
加藤 亮一	（第 6 期・昭和 6 年卒業）		
渡辺 武夫	（第 8 期・昭和 8 年卒業）		
小根山 亘	（第 16 期・写真理学科）		
石川 孝正	（第 18 期・写真芸術科）		（後藤）
岩倉 茂里	（第 18 期・写真理学科）		
阿由葉 八郎	（第 20 期・写真芸術科）		
藤村 富蔵	（第 20 期・写真芸術科）		
関口 鶴松	（第 20 期・写真理学科）		
鷺見 博光	（第 21 期・写真化学工業科）		
中林 英夫	（第 26 期・写真工業科）		
中村 清子	（第 28 期・写真技術科）		（旭）
長瀬 俊雄	（第 31 期・写真工業科）		
斉藤 隆	（第 31 期・写真工業科）		
瀬古 和宏	（第 32 期・写真技術科）		
米村 博充	（第 32 期・写真工業科）		
立石 桂介	（第 33 期・写真工業科）		
大木 磐	（第 34 期・写真工業科）		
中村 和靖	（第 36 期・写真技術科）		
渡部 一彦	（第 36 期・写真製版科）		
会田 哲義	（第 37 期・写真工業科）		
河野 明	（第 39 期・写真技術科）		
中原 邦彦	（第 39 期・写真技術科）		
横田 次郎	（第 39 期・写真技術科）		
伊藤 稔夫	（第 41 期・写真技術科）		
野見山 富茂子	（第 41 期・写真技術科）		（秋山）
辻野 晁一	（第 42 期・写真印刷科）		
瀬川 実	（第 44 期・写真技術科）		
景山 享	（第 45 期・写真技術科）		
西江 広子	（第 45 期・写真技術科）		
池田 茂	（第 45 期・写真技術科）		
桜井 始	（第 46 期・写真技術科）		
岸田 仁	（第 47 期・写真技術科）		
伊垢離 典子	（第 60 期・写真応用科）		（鎌上）
長野 修治	（第 75 期 D・デザイン学科）		

お詫び ひろば Vol.121 14 ページ

「韓国同窓会支部総会に参加して」の文章に訂正がありました。  
 左段 15 行目（昨年→一昨年）、35 行目（1 月 12 日→12 月 30 日）



# 第3期工事開始しました



旧1号館は、デザイン学科が新3号館に移動したあとは、7月末まで東日本震災被災写真救済のための写真センターとして利用されてきました。(2012年6月)

緑のドアの手前は、短大時代ではC暗室。また赤いドアの後方はカラー写真研究室があった。芸術学部になってからはデザイン学科が使用し、緑ドアの手前は初期がDS研、のちにはCD研だった。



新本館、左側の広い空間部分には教室があり、中央から右側は2階部分が事務部、3階部分は写真学科の研究室があった。



重機を入れるため、最初に新本館の2階部分を壊した。(2012年10月初旬)



## 校舎解体風景

まだ原形をとどめていた旧1号館。(2012年10月初旬)



2009年4月から始まった中野キャンパス・リニューアル工事は、第1期工事が2010年7月に新1号館の南側部分が完成し、写真学科、映像学科が入りました。続いて2011年2月に新3号館が完成して最初にデザイン学科(翌年にはマンガ学科が加わりました)が入りました。今年7月末には新1号館の東側が完成して学科共用施設が稼働を開始、また先に事務部が新本館から移動。インタラクティブメディア学科とゲーム学科が来春から入る予定です。そして最後の工事となる、新2号館を建設する工事が9月から始まり、現在は1963年の創立40周年記念事業で誕生した旧1号館と1978年に落成した新本館を解体する工事が進んでいます。完成は2014年の春で、アニメーション学科が入り、全てのリニューアル工事が終了する予定です。

写真と記：福村 敏(45期)



(左)新3号館側(神田川手前)から見た風景。すでに新本館の姿は無くなり、遠方の中野坂上の高層ビルが、そこに有るように見える。



(右)旧正門から見た姿。手前にあった新本館が無くなり、空は広く、奥手の図書館が近くに見えるようになった。(2012年11月末)

### 編集後記

思うところがあり、この数年沖縄県八重山諸島の波照間島へ撮影に行っております。NHKドラマ『つるかめ助産院』の舞台となったハート形の黒島も近くです。島々への旅は石垣島が起終点となります。観光ポスターのと通りの青い空の下に広がる紺碧の石西礁湖には、スクルー推進にして74km/hという恐ろしく速い高速船が海水を船尾に高々と吹き上げて各離島を結んでいます。

夏には颱風により離島へ行けない戻れない、という事がしばしばありますが今夏は石垣市で足止めを食いました。バスターミナル脇の島料理『金ちゃん』でご主人と一緒に撮った写真をすぐに差し上げて驚かせたい、と考えながら歩いてい

たところに一軒の写真館がありました。プリントの仕上がりを待つ間の話の中で館主が同窓生であることが分かり当時の学校の様子や先生の話題へと楽しく話させていただきました。

卒業以来学校を訪れた事は無いけれど『ひろば』を楽しみにしているとおっしゃっていただいた一言に広報の持つ意味と大切さを改めて実感いたしました。今後とも全国の同窓生諸兄の耳目となれる様に努力してまいります。

南星写真館の石垣信和さん、今号の出来はご満足いただけましたか？

広報委員：板垣 雅春(49期)